

注意：内容は実際のスピーチをご参照ください。

(訳文)

2011年1月24日

## 「日独交流150周年」記念式典

### フォルカー・シュタンツェル駐日ドイツ連邦共和国大使挨拶

皇太子殿下

ノイマン国务大臣、松本副大臣、

国会議員の皆様

ご臨席の皆様

本日は記念式典へようこそお越しくございました。本日は、国交樹立150周年を祝いますが、150年といいますと、近現代史では長い時間です。この間、日独両国は先進国へと発展を遂げました。その際、世界史の流れを悲劇的な形に変えもし、他国に多くの苦しみをもたらしました。しかし最終的には、民主的で自由、平和な国家として、すでに長年にわたり、欧州、アジア、その他の地域における自由、平和、繁栄の拡大に貢献しています。私たちは、今後もこの歩みを続けていきます。ここでは、互いへの関心や好意のあり方がよい方向に働いています。日独関係は、条約や政府間の取極めが主体となる関係ではなく、両国間の地理的、文化的距離に鑑みると一層際立つ、はるかに重要な要素があるのです。それは、人と人との交流です。当初から、法学、音楽、医学、文学、哲学、自然科学等、学術・文化の交流が中心にありました。これは特に、将来を担う若い世代同士の交流であり、それは今も変わりません。まさにこのことが、日独関係を非常に実りある有益なものにしているのです。本日、私たちが「祝う」のは、両国関係が持つこの特別な核心部分ゆえんであります。これがあるからこそ、これからの150年も、両国国民の交流が築く精神的な豊かさに誇りを持てると確信できるのだと思います。

本日は、両国の友好のためにさまざまな形で尽力されている関係者の皆様にご列席をいただき、感謝を申し上げます。

皇太子殿下、ご臨席の皆様、それではこれより、ドイツ側名誉総裁であるクリスティアン・ヴルフ大統領の挨拶文を代読させていただきます。